日本の美しい自然を次世代に引き継ぐために

日本の四季折々の美しい自然や貴重な生態系を次世代に引き継ぐために、さまざまな団体と協力して保護・保全活動を推進するとともに、自然学校を運営しています。

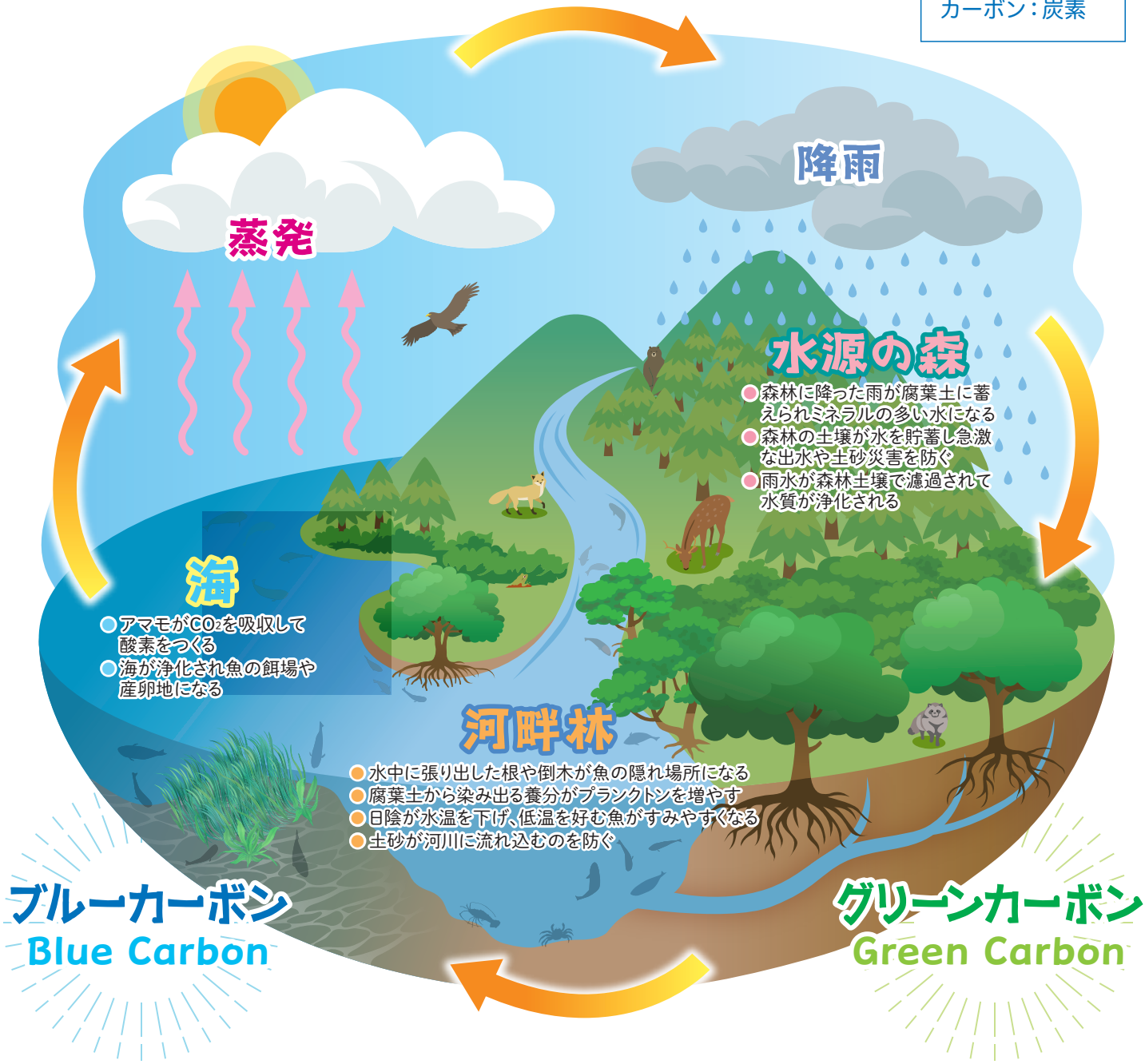
つなげよう、支えよう 森里川海

セブン-イレブン記念財団は、このプロジェクトに賛同しています

森林の保護・保全活動「山の森づくり。海の森づくり。」

「山の森」と「海の森」の二つの視点から「CO_2削減」と「豊かな自然環境の再生」を進めています。

CO_2：二酸化炭素
カーボン：炭素



セブンの森・海の森づくり

セブン - イレブン記念財団は、地域の方々と協力し、アマモを増やして水質浄化やCO_2削減を図る「海の森づくり」活動を行っています。

ブルーカーボンが地球上の生物による炭素固定の55%を占めることから温室効果ガス削減の切り札とされています。

また、日本の木を循環させる文化を基に、植樹から下刈り・間伐までの森の育木活動を通じて健全な森をつくることを目指し、全国で「セブンの森」づくりに取り組んでいます。

「阪南セブンの海の森」
作付けの様子

「東京湾UMIプロジェクト」
海のゆりかごアマモ場

「福井セブンの森」植樹した木周辺の下刈り

「山梨セブンの森」食害フィルターの補修

「宮城セブンの森」の間伐材を利用した木製募金箱

2012年より震災復興支援として、豊かな森をつくるために宮城県大崎市鳴子温泉玉ノ木にてＮＰＯ法人しんりんと協定を締結し、「宮城セブンの森」づくりを行っています。

募金箱は宮城県大崎市の障害者就労支援事業所で組み立てています

2014年から間伐材を利用した木製募金箱を店頭に設置し、木材を循環させていくことで森林保全と地球温暖化防止につなげています。

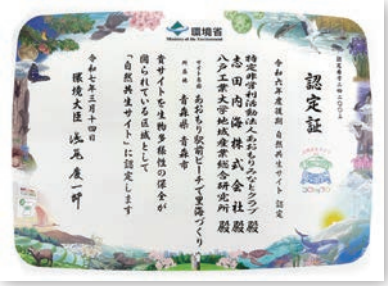
「宮城セブンの森」集合写真

「あおもり駅前ビーチ」環境省が取り組む自然共生サイトに認定

『青森セブンの海の森』の活動場所でもある「あおもり駅前ビーチ」は、生物多様性の保全が図られている区域として、環境省より『令和６年度後期 自然共生サイト』に認定されました。

「青森セブンの海の森」集合写真

青森セブンの海の森は、青森県青森市とNPO法人あおもりみなとクラブとセブン - イレブン記念財団の三者で協定を結び活動をしております。海岸・海中清掃やアマモの保全活動を通じ『人間と水生生物が共存する、居心地の良い空間づくり』を実現にすることに向けて活動しております。



表彰状

30by30
ロゴマーク

「庄内セブンの森」事業にかかわる連携に関する協定の締結

2025年２月５日（水）、庄内自然博物館構想推進協議会、鶴岡市、一般財団法人セブン - イレブン記念財団の三者で、『庄内セブンの森』整備・保全に関する協定を締結しました。

「庄内セブンの森」協定締結式

【協定の目的】
活動区域において整備・保全活動を実施することにより、湿地やその周辺の自然環境の保全に貢献するとともに、地域社会との交流を実施し、地域の発展に寄与する。

【活動場所】
山形県鶴岡市大山字都沢地内　7.7ha

【協定期間】
2025年２月５日～2035年３月31日

トピックス 循環する募金箱

セブン - イレブン店頭に置いてある募金箱は、宮城セブンの森で伐採した間伐材で作られています。

この募金箱はすべて、宮城セブンの森で協定を結んでいるNPO法人しんりん様・セブンの森活動に参加されたセブン - イレブン加盟店様・本部社員が伐った木を使い、宮城県内で加工をしています。

組み立てる時は金属を使わず竹釘を使用し、役目を終えたものは廃棄をせず、また宮城に戻ってきて解体されたのち、燃料や新たな木製品として活用されています。

宮城県大崎市の就労支援事業所にて組立の作業風景

ペレットの原材料として利用されています

募金箱で使用できそうな物はカンナで削り再利用

宮城セブンの活動に参加した子どもたちへの勲章としても再利用しています

日本の美しい自然遺産を次世代へ

霧多布湿原保全活動 ～霧多布セブンの森～

豊かな生態系を抱く霧多布湿原を次世代に引き継ぐために、「小さな力が集まって、大切な自然遺産を残していく」ナショナルトラスト運動を推進しています。

北海道浜中町の認定ＮＰＯ法人霧多布湿原ナショナルトラストとパートナーシップ協定を結び、2002年より霧多布湿原の民有地などを取得し保全しています。

2018年より「霧多布セブンの森」も始動しました。

取得面積 **488.7ha**（2025年2月末日現在）

霧多布湿原は、ラムサール条約登録湿地

琵琶湖保全活動 ～滋賀セブンの森～

琵琶湖を取り巻く環境を健全な姿で引き継ぐため、2019年に滋賀県、守山市、淡海を守る釣り人の会、セブン - イレブン記念財団の四者で連携協定を締結し、

「滋賀セブンの森」集合写真

「滋賀セブンの森」ゴミの分別活動

「滋賀セブンの森」活動として湖岸清掃や小さな自然再生を実施しています。

年２回の活動には、行政、企業、学生、市民と産官学民が一体となり、湖岸に漂着したゴミの収集、分別作業を力を合わせて行ってます。

富士山保全活動

セブン - イレブン記念財団は1994年より富士山の環境美化保全活動への取り組みを開始しました。1998年より、セブン - イレブン加盟店と（株）セブン - イレブン・ジャパン社員などを対象に「セブン - イレブン記念財団　富士山保全活動」を主催し、2022年度から静岡県及び認定NPO富士山クラブと協働で「６R県民運動」として静岡県内の海岸清掃活動を行っています。

清掃活動

集合写真

「国立公園の環境保全活動に関する協力協定書」を締結

2023年4月7日（金）、一般財団法人セブン-イレブン記念財団は、環境省自然環境局および地域の活動団体とともに『国立公園の環境保全活動に関する協力協定書』を締結いたしました。

（左）環境省自然環境局 奥田直久局長、
（右）一般財団法人セブン-イレブン記念財団
山本憲司理事長 ※協定締結時点

協定の経緯

セブン-イレブン記念財団は2023年11月に設立から30周年を迎え、国立公園は最初の指定から2024年で90周年を迎えました。これを機に、両者は国立公園における環境保全活動の推進を図り、自然の風景地の保護及び生物多様性の確保に向けた取り組みの促進、並びに保護と利用の好循環による地域社会の持続的な発展に寄与することを目的に、相互に協力してこれらの取り組みを促進し更なる取り組みの深化や発信等を行うことに合意し、協力協定を締結いたしました。

協定の概要

【協力内容】

①協働で実施する環境保全活動に関する事項
②環境市民活動助成に関する事項
③環境保全活動への参加の呼びかけに関する事項
④その他本協定の目的に資する事項

瀬戸内海国立公園（周防）竹林・
登山道の課題解決活動 集合写真

【活動内容】※今後5つの国立公園から環境保全活動を開始、順次拡大していく予定です。

磐梯朝日国立公園（植物の保全のため、外来種駆除を実施）／**日光国立公園**（景観の保全のため、外来種対策や里山管理を実施）
富士箱根伊豆国立公園（植物の保全のため、防鹿柵の設置・点検を実施）
瀬戸内海国立公園（海岸清掃・登山道の維持管理等を実施）／**霧島錦江湾国立公園**（干潟の保全・再生を協働で実施）
※瀬戸内海国立公園は周防（すおう）・日生（ひなせ）の2カ所で実施。

「富士箱根伊豆国立公園整備活動」紹介動画

野生鹿と希少植物の共存共栄を目指した活動

「富士箱根伊豆国立公園整備活動」では、環境省自然環境局およびHakone Deer Actionとともに自然遺産の保護及び生物多様性の確保と、鹿との共存共栄を目的とした活動を実施しています。

富士箱根伊豆国立公園 集合写真

箱根町ではニホンジカの増加および生息域の拡大にともない、生物多様性の減少や自然景観の後退などの問題が顕在化しています。そこで鹿防護柵をすべての範囲に設置するのではなく、必要に応じた場所に 柵を設置し、希少な植物を守りながら鹿の生息域も減らさないことを目指して活動しています。

富士箱根国立公園
紹介動画はこちら

「セブンの森」づくり一覧

（全31カ所、うち終了12カ所）

「セブンの森」は下刈りや植樹を行い、10年後・20年後に地域の自然環境やニーズに合わせた森にする、というような地域に親しまれ、愛され、次世代に繋げる地域一体型の森づくりを目指しています。2018年度からは国有林・公有林に私有林も加え、地域住民やNPO、行政と連携し、気軽に参加して自然体験や地域交流ができる森づくりを行っています。

都道府県	名　称	場　所	開始年	面　積	活動分野
北海道	支笏湖セブンの森	千歳市	2006年～2021年終了	16.3ha	森林
北海道	千歳セブンの森	千歳市幌加	2009年～2014年終了	1.2ha	森林
北海道	えりも岬セブンの森	幌泉郡えりも町	2013年～2023年更新	4.7ha	森林
北海道	霧多布セブンの森	厚岸郡浜中町	2018年～	488.7ha	湿原
青森県	青森セブンの海の森	青森市	2021年～	—	海
山形県	庄内セブンの森	鶴岡市	2025年～	7.7ha	湿原
宮城県	宮城セブンの森	大崎市鳴子温泉玉ノ木	2013年～	300.0ha	森林
宮城県	仙台湾セブンの森	名取市下増田台	2014年～2019年終了	1.0ha	森林
宮城県	東松島セブンの森	東松島市浜市	2016年～2021年終了	1.0ha	森林
宮城県	塩竈セブンの海の森	塩竈市	2020年～	—	海
福島県	相馬セブンの森	相馬市磯部大洲	2016年～2021年終了	0.3ha	森林
茨城県	茨城セブンの森	水戸市見川町桜川緑地	2018年～2024年終了	6.0ha	河畔林
栃木県	栃木セブンの森	矢板市長井	2013年～2018年終了	2.0ha	森林
埼玉県	埼玉セブンの森	太郎右衛門自然再生地	2022年～	—	河畔林
千葉県	千葉セブンの森	富津市	2012年～2016年終了	2.5ha	森林
千葉県	館山セブンの海の森	館山市沖ノ島	2021年～	—	海
東京都	高尾セブンの森	八王子市川町	2014年～	26.5ha	森林
福井県	福井セブンの森	福井市小羽町「清水きららの森～おばやま自然公園～」	2017年～	2.6ha	森林
山梨県	山梨セブンの森	笛吹市石和町	2020年～	20.6ha	森林
長野県	長野セブンの森 Ⅰ	埴科郡坂城町	2012年～2016年終了	250.0ha	森林
長野県	長野セブンの森 Ⅱ	上水内郡信濃町「やすらぎの森」	2017年～	15.9ha	森林
三重県	三重セブンの森	津市美里町	2014年～2019年終了 2020年更新	1.2ha→8.8ha	森林
滋賀県	滋賀セブンの森	守山市今浜町 第２なぎさ公園	2019年～	—	湖
大阪府	大阪セブンの森	能勢郡能勢町「歌垣山」	2013年～2018年終了	3.7ha	森林
大阪府	阪南セブンの海の森	阪南市西鳥取漁港西海岸	2018年～	—	海
奈良県	奈良セブンの森	北葛城郡王寺町、北葛城郡上牧町	2023年7月～	3.93ha	森林
広島県	広島セブンの森	東広島市八本松町	2013年～2021年更新	3.6ha→15ha	森林
福岡県	福岡セブンの森	福岡市早良区曲渕	2015年～2020年終了	1.8ha	森林
佐賀県	佐賀セブンの森	三養基郡基山町	2014年～	4.7ha	竹林
宮崎県	宮崎セブンの森	日南市北郷町	2013年～2020年終了	3.0ha	森林
大分県	大分セブンの森	玖珠郡九重町	2021年～	600ha	草原

面積合計　1787.9ha

（2024年度末時点）

「セブンの森」づくり累計活動結果

（2006年度～2024年度）　2025年2月末日現在

活動回数	321回
加盟店と本部社員参加人数	18,618名
一般参加人数	10,415名
参加者数合計	29,146名

「セブンの森」ご紹介動画

塩竈セブンの海の森

アマモの場の再生から松島湾全体の改善へ

山梨セブンの森

荒廃した大蔵経寺山の森を整備し多くの人が森に集える環境に戻す

佐賀セブンの森

放置竹林を整備し、竹から竹チップを作り、家畜の床材に活用する地域循環の取組

大分セブンの森

原風景である草原、森林環境、生物多様性の保全、野焼き文化を次世代に継承する

自然学校

「人と自然、自然環境と地域社会の共存・共栄を自然から学ぶ」
大分県玖珠郡九重町（くすぐんここのえまち）と東京都八王子市川町で自然学校

スタッフ集合写真

高尾の森自然学校

「高尾の森自然学校」は、東京都が初めて民間団体と拠点施設を構えて取り組む協働事業です。2015年4月に開校し10周年を迎えました。東京都八王子市川町の約26.5haの都所有の森をフィールドに、貴重な森林を守り、育むことにより脱炭素社会の実現に寄与します。また東京都レッドリストに掲載されている貴重な動植物の保護・保全活動を通して、生物多様性の重要性を体験し学ぶとともに、地域の自然、歴史、文化などを次世代に継承していく人材を育てます。

「高尾セブンの森」は、高尾の森自然学校が開校する前の2014年8月から地元の方と共に、東京都八王子市川町の豊かな自然が残る森を保全する活動を実施してきました。また月3回実施している森林整備活動「森のお手入れボランティア」は2025年2月末までに計173回実施し、延べ1,887名の方にご参加いただき、森を整備するだけでなく、森づくりの必要性についての講習なども行っています。

体験プログラム「音楽祭」

高尾セブンの森「伐倒作業」

体験プログラムを通して環境を学ぼう！

春には新緑の中で音楽を楽しむ『森の音楽祭』を実施。夏には夜の森を歩きながら昆虫観察会、秋には紅葉を楽しみながらの植物観察会、冬には自然素材を使ったクリスマスリースやツリー、門松づくりを実施。また、年間を通じて伝統野菜を育て、種を次世代に繋いでいく畑プログラムなど、四季を感じる様々なプログラムを提供しています。

体験プログラム「昆虫観察会」

体験プログラム「畑プログラム」

を基本理念に、
を運営しています。

職員集合写真

九重（くじゅう）ふるさと自然学校

九重ふるさと自然学校は、2007年に開校し、ラムサール条約に登録された「くじゅう坊ガツル・タデ原湿原」をはじめとする草原環境の保全や草原性チョウの保全活動、さらにお米も生きものも育む自然共生型の田んぼづくりや地域に根付く伝統野菜の普及・啓発を通して、人と自然が共生する里地里山の保護・保全活動に取り組んでいます。

「大分セブンの森」では、飯田高原一帯の環境を守ろうと、2021年より草原および森林において活動を行っています。2024年度は飯田高原で問題になっている特定外来生物オオハンゴンソウの駆除、さらに草原維持のための野焼きを安全に行うために欠かせない防火帯の整備を延べ222名の方と共に行いました。

体験プログラム
「川のいきものしらべ」

大分セブンの森
「オオハンゴンソウ駆除活動」

体験プログラムと生物多様性 ～お米も生きものも育む田んぼづくり～

自然学校の田んぼはお米だけでなく、生きものも育む田んぼを目指しています。

無農薬はもちろんのこと、中干し（稲の成長のために夏に田んぼの水を抜くこと）をオタマジャクシがカエルになるまで待って実施したり、田んぼと田んぼをつなぐ魚道を作り、ドジョウや小魚が行き来しやすくしたりと取り組みはさまざまです。

体験プログラム
「田んぼの生きものさがし」

週末には田んぼの生きものさがしや、田植え、稲刈りなどのプログラムを開催しています。子どもたちの歓声が響く田んぼは「こども」も育む田んぼです。

体験プログラム
「稲刈りと秋の生きものしらべ」